

令和3年度学校評価 成果と課題、改善点・方策等

分 掌	目標番号	項 目	1年間の成果と課題、次年度への改善点・方策等
総務部	④	決められた時間と身の回りの備品を大切に使う	今年度もコロナ禍の影響で、防災訓練も例年の計画に加え密にならないよう、運動場に予定時間内に避難することができた。ロッカーや机・椅子は概ね丁寧に使用できている。不備なものについては、年度末の点検で交換・整備する予定である。清掃用具も大切に使用されており、消耗の激しいものは年度の途中でも交換できるようにした。次年度も、防災計画に従って避難訓練を実施し、机や清掃用具などの備品を大切にすることをとおして、規律ある学校生活を送れるように指導を続けていきたい。
教務部	①④	基礎学力の向上と学習習慣の定着 授業に取り組む姿勢の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>各授業の中で、基礎学力の向上を目指すとともに課題等を活用して学習習慣の定着を図っているところであるが、1・2学期の欠点延べ数は昨年を上回っており、追考査の合格率も昨年度より低い。</li> <li>朝の時間帯は健康観察の記入や携帯電話の回収などがあり、10分間勉強が落ち着いてできていないときもある。今後も担任・副担任が協力し落ち着いて学習に取り組む習慣を身につけさせたい。</li> <li>各教科で、ICTを活用した研究授業を実施した。アンケートをTeamsを活用して実施するなど一時期よりは進んでいるところではあるが、臨時休業に対応できるほどは充実していない。</li> </ul>
人権・同和教育部	⑦	生徒・保護者の人権意識向上 地域との交流	<p>人権・同和教育LHRにおける学びが生徒の心に残るものとなるように内容の検討をすすめ、ワークシートや資料の一部刷新を行った。</p> <p>人権通信(教職員版)(生徒版)(保護者版)の発行やPTA新聞への投稿、文化祭での人権展を行った。また、新型コロナ対策で人権映画会は保護者に案内せず実施することとし、PTA新聞に内容や生徒感想文を掲載することで啓発を行った。</p> <p>上高野文化センターや上高野児童館における文化祭への参加や交流活動を行った。新型コロナ対策で文化祭の規模を縮小したり、くだもの交流・どうぶつ交流が中止になるなど影響が出たものの、できる範囲で地域の方々や触れ合うことで人間的なつながりを深めるとともに、社会とのつながりの中で自尊感情の醸成に繋げていくことができた。次年度も、生徒一人ひとりが自他のかげがえのない価値を認識しながら協働し、様々な分野に積極的に挑戦し、自分の可能性を高めることができるように、同和教育を柱とした人権感覚より高める人権・同和教育を推進していきたい。</p>
特別活動部	③ ⑦	部活動の活性化 地域社会に貢献する	<p>今年もコロナの影響が、部活動に参加する生徒が少なかった。何とか総体はできたが、練習の制約も多く生徒の意欲も上がらないように感じた。また秋以降も休校や部活制限が長引き、部活動が実質崩壊状態にあるのが歯がゆいところである。</p> <p>三年生の修学旅行 収穫感謝祭もなくなった。体育祭やクラスマッチは縮小版で実施できたのがよかった。遠足も何とか実施できたのがせめてもの救いだ。</p> <p>来年度もコロナ禍が続くことを予想して、何とか少しでも特別活動を工夫して実施したいと思う。</p> <p>クラスマッチ 体育再 ロードレース大会 遠足 収穫感謝祭 そして部活動の実質参加率を上げたい。</p>
生徒指導部	④⑤⑥	遅刻の減少、携帯電話のマナーを守る 積極的に挨拶をする	遅刻に関しては、コロナの影響もあり欠席を含め増加傾向にある。学校に時間通りに登校し、活動する意識をうえつけられるように指導していきたい。携帯電話のマナーについてはあまり問題意識が感じられない。粘り強く指導して、マナーを守るよう徹底していくしかないと思われる。また、積極的な挨拶に関しては、声をかければ挨拶を返してくる生徒がほとんどであり、自分からしてくれる生徒も多くなった。ただ、挨拶をすることを苦手としている生徒も若干見られるので、積極的に声をかけて挨拶ができるよう習慣づけていきたい。
教育相談部	②	自己理解のための支援 課題解決のための援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自分の気持ちや考えを整理して、表現できるよう支援する取り組みについては、質問紙や面接などの方法で支援につながるよう実施した。これにより、自分を見つめ、表現できるようになった生徒も増えてきたが、継続して取り組んでいきたい。</li> <li>学校生活の様々な場面で、生徒が相談しやすい環境作りに努める取り組みについては、スクールカウンセラーによるLHRの実施やスクールソーシャルワーカーに授業中や休み時間の様子を見ていただき、気になる生徒の様子を教員以外の立場から見ていただいたりすることで、カウンセラーやソーシャルワーカーが身近な存在になるように努めた。その結果、相談をする生徒が増え、課題解決にむけて動き出す生徒もいた。今後も継続して、取り組み、援助をしていきたい。</li> <li>今後もさらに、担任や関係職員、保護者と連携し、情報共有できるように活動することを心がけて活動したい。</li> </ul>
進路指導部	②	進路意識の向上(1,2年)と 進路実現(3年)への支援	<p>新型コロナウイルス感染予防のため、オンラインに切り替えるなど工夫をしながら進路行事を実施してきたが、2年生対象の進路ガイダンスは中止となってしまった。校外のガイダンスやオープンキャンパスの中止も相次ぐ中で、生徒の進路意識をいかに高めるかが課題であった。3年生の進路については、コロナ不況の影響もあまり受けず、概ね希望通りの進路先に進学・就職することができた。進学・就職ともに、基礎学力やコミュニケーション力が求められている。進路指導を通して、生徒が主体的に自己の進路を選択・決定できる能力や職業観を育成していきたい。</p>
保健部	②	積極的な健康作りの推進・安全意識の高揚を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康週間を2回実施し、自分の健康について振り返ったり、意識して行動するための機会を設けた。健康診断だけではなく、定期的に情報提供したり、委員会活動を行うことで健康づくりにつながることができた。感染状況を確認しながら、今後も活動を続けていきたい。</li> <li>新型コロナウイルス感染症対策として、アルコール消毒液や手洗い石けん等の配置、換気を目安として二酸化炭素濃度計を利用したり、健康観察カードを活用して健康状態の把握に努めた。また、昼食時に感染防止行動について注意喚起を続けた。感染症発生防止とともに、発生後の拡大防止に努めた。変化する現状を迅速に的確に把握し、引き続き対応を行ってきたい。</li> </ul>
農場部	⑦	地域社会に積極的に貢献する 態度を養う	<p>交流活動や地域連携行事等は、新型コロナウイルス感染防止により、実施できないものもあったが、産業教育フェスティバルなど実施することができた。また、笠高祭の販売実習だけでなく、本校の農産物や加工品を食材として提供する機会も多く、地域社会に貢献するとともに笠高生としての自尊心やコミュニケーション能力を高めることができた。専門的な基礎・基本事項の確実な定着については、農業技術検定の結果からみると合格率が低く、1年次より農業の基礎・基本的な知識をしっかりと身につけさせ、2年次から専門的な知識を確実に定着できるよう指導していきたい。</p>
家庭部	②	自分の目標を持ち、その実現を目指す笠高生	<p>コンクールに応募については、複数応募することができた。コロナ禍の影響で十分実習時間が確保しづらい中、家庭科技術検定についてもほとんどの生徒が意欲的に取り組み、3年生で三冠王が2名、技術特級が1名おり、最後まであきらめずに努力した結果だと考える。その他、保育検定やビジネス文書実務検定など、資格取得に積極的に取り組んだ。しかし専門のコースの検定で合格できず苦慮している生徒もいるので、生徒のやる気を高め、きめ細かい指導を根気強くしていきたい。家庭科の備品の扱いについても、十分できていない生徒もいるので、合わせて今後も指導を続けていきたい。</p>
1年団	① ④	授業を大切に、向上心を持つ。 マナーや時間を守り、規律を守る。	<p>まだまだ、学力的に心配な生徒が非常に多い状況である。授業態度は落ち着いてきた部分もあるが、まだ、学習への取り組む姿勢や提出物を期限内に出す習慣を身につけさせるよう引き続き指導していきたい。</p> <p>服装等においては指導直後は改善が見えるものですがすぐまた繰り返すので、保護者と綿密な連携を図り、学校と家庭の双方で根気強く指導を繰り返していきたい。また、進路指導を重ねつつ、将来への目標を定めさせ、学業に対するやる気を出させられるよう指導していきたい。</p>
2年団	①④	マナーや時間を守り、規律を守る。 授業を大切に、向上心を持ち、自分の目標を定める	<p>特に規律を守れない生徒が依然として一定数いるものの、学年全体としては少しづつ落ち着いてきている。修学旅行が終わり、就職希望者への個人面談や進路指導部講話等を受けながら一歩ずつではあるが自分の進路に向けて考え始めた生徒もでてきた。これからは3年生になるので、もっと具体的に目標を持たせ、その目標が叶うように、卒業後のことも考慮させながら取り組ませたい。</p>
3年団	②	進路実現のための学力を身につけるとともに、社会性を養う。	<p>今年度も新型コロナ感染の影響で、進学説明会やオープンキャンパスが十分には開催されず具体的な将来目標を持っていないまま進路を決める者や就業意識の弱い者が若干名いたが、概ね希望する進路に進めたようだ。公共のマナー、協調性、責任感などの意識も学年終盤に向け高まってきた生徒も少なからず現れた。学年当初から進路意識や社会性を育む取り組みが必要だ。卒業アンケートより、「入学の目標は達成できた」が68.5%、「在籍してよかった」が76.6%の評価で概ね充実して学校生活を送れたことが伺われる。</p>